揖斐郡教育研修センター通信　第６号　R5. 11. 22

～揖斐郡内各小中学校の先生方に「ほほえみ教室」についてご理解いただくために～

揖斐郡教育研修センター「ほほえみ教室」には２５名の児童が在籍し、１２名が日常的に通級しており、次のような取組を行っています。揖斐郡内各小中学校の先生方に広く、ほほえみ教室の意義を再確認していただき、学校とほほえみ教室が連携して、「揖斐郡内不登校小中学生の社会的自立を促し、学校生活への復帰を支援」できるよう今後も取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願い致します。

各校において回覧していただき、各先生方にほほえみ教室の活動を再確認していただきますようお願い致します。

ほほえみ教室

ほほえみ教室の目標

～郡内不登校小中学生の社会的自立を促し、学校生活への復帰を支援します～

ほほえみ教室では次のような活動をおこなっています。				
個人活動	自分にあった計画で学習・制作を行っています。			
集団活動	みんなで運動・レクリエーション等の活動を行っています。			
学　習	ス　ポ　ー　ツ	創　作	ソーシャルスキル	レクリエーション
☆教科書を中心とした学習 ドリル学習 プリント学習 読書　など	卓球 バドミントン なわとび 遊具あそび など	パズル・手芸 折紙・イラスト 工作 など	☆仲間関係づくり ☆コミュニケーション力の向上	ウノ、トランプ ボードゲーム オセロ・百人一首 かるた・将棋 など

教育相談

電話相談　月、火、木、金　9:00～16:00　0585 - 44 - 1268
来所相談　面接日を予約してお越しください

心の相談会

年に５回、開催しています。臨床心理士の先生からお子さんや保護者の方に応じたアドバイスがもらえます。悩んでいらっしゃる方は、是非ご相談ください。毎回多くの方にご相談いただいています。

次回「心の相談会」は　１１月２９日（水）　１４：００～１７：００　申込〆切済
１２月１３日（水）　１５：３０～１７：００　申込受付中
※12 月 13 日は教育相談研修会後の実施になります

保護者と先生のための教育相談研修会

臨床心理士や大学の先生等専門家の講話を実施しています。
「不登校傾向になった子どもに、よかれと思って支援しているがうまくいかない」と悩んでみえる保護者の方、指導力を向上させたい学校の先生方、ぜひご参加ください。

今まで実施した教育相談研修会の内容

- **適応障害の児童生徒の支援について～愛着障害や学習障害との関わりを通して～**
  不登校や教室へ入れない、周囲と同じように学習できないなどの適応障害を起こしている児童生徒について、具体的に聞きたいことや質問したいことを踏まえお話をしていただきました。

- **感情コントロールの困難さを抱えた子どもたち**
  感情のコントロールがうまくできないために、不登校や、教室へ入れない、周囲と同じように学習できない、突然切れる、うそをつく、いじめる、自傷行為を行うなどの行為のみられる児童生徒について、具体的に聞きたいことや質問したいことを踏まえ、お話をしていただきました。

- **「学校に行きたくない」「教室に入れない」と言う子どもをどうする!?**
  不適応児童生徒への対応―具体的事例を通して
  ―親は?先生は?学校は?どう受け止め、どう対応する?―
  「学校に行きたくない」「教室に入れない」と子どもが言い出したら、どうしたらよいのでしょう？
  どう受け止め、どう関わることがその子のためになるのか、保護者や担任、学校は、どういう体制で支援したらよいのかを学びました。どの子にも起こりうる、不適応、不登校等について、臨床心理士の井上先生に具体的な事例を通して講演していただき、保護者や、先生方、学校が、実際に生かすことができました。

- **「子どもの困り感」って誰の問題なの？**
  ―子どもの不適応行動に、親は、教師は、どう判断し対応すれば良いのかを考える―
  「学校に行きたくない！」と言って動けなくなってしまったり、教室でじっと座っていられない。注意されたり、けんかになったりすると、暴言をはいたり、ものを倒したり、部屋を飛び出したりする。机の周りに物が散乱してしまう。・・・問題行動といわれる子どもの行動は何故起こるのでしょうか。また、親や教師は子どもをどう見て、どう関わったらよいのかについて、保護者の方、指導力を向上させたい先生方が一緒に学びました。

次回の「保護者と先生のための教育相談研修会」を、講師に各務原病院臨床心理士　井上修一先生をお招きし、

令和５年１２月１３日（ 水 ）　１４：００～１５：２０　はなもも２階多目的室（２）

で実施します。対象は郡内小中学生の保護者、教職員です。先生方にもぜひご参加いただき、実践にお役立てください。

大人は、子どもの困り感をどう掴み、どう寄り添うか？
―HSC・愛着障害・トラウマなどの今日的症例を通して―

新しい場所になかなかなじめない。大きな声や物事に驚きやすい、ちょっとしたことでも泣いてしまう。お子さん（児童生徒）が他の子よりも傷つきやすい、繊細だなと思ったことはありませんか。感受性が極めて強く、感覚や人の気持ちに敏感で傷つきやすい子がいます。その割合はおよそ５人に一人と言われています。子どものいいところを伸ばすために、ＨＳＣがどういうものか、どう対応すればいいのかについて、愛着障害やトラウマと合わせて学びます。